

一般社団法人 日本医療薬学会  
平成 25 年度第 3 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 25 年 6 月 6 日(水) 14 時 ～ 18 時

二．開催場所：日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭：安原 真人

副会頭：鈴木 洋史、望月 真弓

理 事：青山 隆夫、荒木 博陽、井関 健、大澤 孝、大森 栄、川上 純一、  
河原 昌美、北田 光一、草井 章、谷川原 祐介、寺田 智祐、  
宮崎 長一郎、山田 清文、山本 康次郎

監 事：乾 賢一、山田 安彦

陪席者

事務局：中澤 一純、松本 とみ恵、星 隆弘

欠席者

副会頭：奥田 真弘

理 事：佐々木 均、山本 信夫

年会長：眞野 成康 (第 23 回年会)

四．議長：安原 真人

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 17 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の要領及びその結果

1. 平成 25 年度第 1 回定例理事会議事録の確認

議長より、本年 3 月 27 日に開催された平成 25 年度第 2 回定例理事会(以下、前回理事会という)議事録案を基に議事内容の確認が行われ、更なる指摘がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。続いて、資料に基づき、前回理事会開催日から昨日までの会務の状況報告があった。

2. 第 5 回定時社員総会議事録の確認

議長より、本年 3 月 27 日に開催された第 5 回定時社員総会議事録案を基に議事内容の確認が行われ、更なる指摘がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

3. 協議事項

## (1) 平成 25 年度学会賞受賞者の選考

### 1) 功績賞受賞者の決定

議長より、配付資料を基に、功績賞選考委員会による今年度の功績賞受賞候補者の選考結果が報告され、次の 3 氏を本理事会に推挙したことが説明された。協議した結果、当該 3 氏への功績賞授与が全会一致で了承された。(以下、順不同)

- ・ 大石 了三 氏 (前九州大学病院)
- ・ 宮本 謙一 氏 (金沢大学附属病院)
- ・ 矢後 和夫 氏 (北里大学)

### 2) 学術貢献賞受賞者の決定

大森理事より、配付資料を基に、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会による今年度の学術貢献賞受賞候補者の選考結果が報告された。今年度は 2 名より応募があり、提出された資料を基に同選考委員会で選考した結果、次の 1 名を受賞候補者として本理事会に推挙したことが説明され、協議した結果、同氏への学術貢献賞授与が全会一致で了承された。

- ・ 池田 博昭 氏 (広島大学病院)

### 3) 奨励賞受賞者の決定

大森理事より、配付資料を基に、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会による今年度の奨励賞受賞候補者の選考結果が報告された。今年度は 3 名より応募があり、提出された資料を基に同選考委員会で選考した結果、次の 2 名を受賞候補者として本理事会に推挙したことが説明され、協議した結果、当該 2 氏への奨励賞授与が全会一致で了承された。(以下、順不同)

- ・ 村木 優一 氏 (三重大学医学部附属病院)
- ・ 矢野 良一 氏 (福井大学医学部附属病院)

### 4) 論文賞受賞論文の決定

井関理事より、配付資料を基に、論文賞選考委員会による今年度の論文賞候補論文の選考結果が報告された。今年度は次の 3 編を受賞候補論文として推挙したこと及び選考理由の説明があり、協議した結果、当該 3 編に論文賞を授与することが全会一致で了承された。

- ・ 副作用データベースを利用した高齢者における医薬品による副作用の特徴および危険因子に関する研究 (医療薬学 Vol. 38, No. 2, 67-77 著者 林 恭子 氏ほか)
- ・ Docetaxel 希釈濃度による過敏症発現率の相違に及ぼす検討 (医療薬学 Vol. 38, No. 9, 547-558 著者 葉山 達也 氏ほか)
- ・ Compatibility of Heparin Sodium in Intravenous Line with Nicardipine Injected from a Side Tube via T-shape Stopcock (医療薬学 Vol. 38, No. 11, 679-687 著者 Takafumi Hayashi (林 貴史) 氏ほか)

### 5) Postdoctoral Award 受賞者の決定

大森理事より、配付資料を基に、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会による Postdoctoral Award 受賞候補者の選考結果が報告され、13 名の応募者より提出された資料を基に同選考委員会で選考した結果、次の 5 名を受賞候補者として本理事会に推挙したことが説明され、協議した結果、当該 5 氏への Postdoctoral Award の授与が全会一致で了承された。(以下、順不同)

- ・ 佐藤 夕紀 氏 (北海道大学大学院薬学研究院 薬物動態解析学研究室)
- ・ 辰島 瑤子 氏 (社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院)
- ・ 東 敬一朗 氏 (金沢市立病院)
- ・ 平 大樹 氏 (滋賀医科大学医学部附属病院)
- ・ 山川 裕司 氏 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院)

(2) 表彰規程の改定(功績賞規程、Postdoctoral Awardに関する規程、各学会賞表彰内規)  
議長より、功績賞規程及び各学会賞表彰内規について、実態に即した形に規程・内規上の文言を整備する改定を行うという説明があった。続いて、大森理事より、Postdoctoral Awardの規程における受賞者の参加費等の免除に代えて年会参加費相当の副賞を授与するよう改定を図りたい主旨の説明があった。協議した結果、両提案共に全会一致で了承された(改定された規程・内規については、本日付で施行された)。

### (3) 平成 25 年度認定薬剤師制度の認定審査

大森理事より、配付資料を基に、第 1 回認定薬剤師制度委員会で審議した認定薬剤師試験の受験資格、指導薬剤師の委嘱資格、研修施設の認定資格審査に係る判定結果の報告があった。認定薬剤師には 74 名から申請があり 72 名が受験資格を有すると判定した。指導薬剤師の委嘱に 31 名から申請があり 26 名が委嘱資格の要件を満たすと判定した。また、認定薬剤師制度の研修施設として 11 施設から申請があり 10 施設が認定要件を満たすと判定したことが説明された。全ての判定結果について協議した結果、全会一致で了承された。指導薬剤師の委嘱日、研修施設の認定日(共通): 2013/6/10、指導薬剤師の委嘱期間(2013/1/1~各委嘱者が有している認定薬剤師の認定期間の満了日まで)、研修施設の認定期間: 2013/1/1~2017/12/31)。なお、従前の理事会でも協議された認定薬剤師に必要な論文や学会発表の取り扱いについては、早急に議論を進めて次回の理事会に諮りたいという考えが示された。

### (4) 平成 25 年度がん専門薬剤師認定制度の認定審査

1) 谷川原理事より、配付資料を基に、第 2 回がん専門薬剤師認定制度委員会で審議した過渡的措置によるがん指導薬剤師に準ずる者から正規のがん指導薬剤師への移行認定に係る審査と、がん専門薬剤師研修施設の認定審査に関する説明があった。がん指導薬剤師の正規認定への移行申請が 6 名より行われ、全申請者ががん指導薬剤師の認定資格要件を満たしていたと判定した。また、がん専門薬剤師研修施設に 17 施設から申請があり、16 施設が認定要件を満たしている判定し、残りの 1 施設については同研修施設に準ずる施設として認定可能と判定したことが説明された。協議した結果、全ての判定結果が全会一致で了承された。

2) 続いて、がん専門薬剤師認定申請の症例審査を円滑に進めるために、新たに 11 名を今年度のがん専門薬剤師認定申請に係る書面審査員として委嘱したい旨の説明があった。協議した結果、全会一致で了承された。

### (5) 薬物療法専門薬剤師資格の辞退に係る嘆願

山田理事より、本年 1 月に認定した薬物療法専門薬剤師の認定者 1 名から提出された同

認定資格の辞退（返上）の申し出に係る嘆願についての説明があった。本学会が運営する2種類の専門薬剤師制度では、互いの研修を同一期間に重複して履修することを認めておらず、本学会HPでも事前に告知していたが、薬物療法専門薬剤師認定制度委員会としては嘆願者の意向を了承したいとの説明があった。協議した結果、全会一致で了承された。

#### (6) 会員細則の制定と会費の遡及納入に係る嘆願

荒木理事より、従前の理事会で頻回にわたり協議されてきた会費の遡及納入の嘆願に係る対応のルール化について説明があった。会員委員会で意見を聴取し、遡及納入に限らず、入退会、会費の納入、その他会員（資格等）の諸手続きに関わる規定を盛り込んだ会員細則（案）を策定したことが説明された。配付資料を基に、主なポイントとして、会費の遡及納入の取り扱いをルール化したこと、新たに海外留学者・休職者等に対する休会制度を導入したこと、会費未納時の退会の取り扱いを明文化したことが説明された。また、本細則（案）の運用については、周知期間を設けた上で実施することとし、附則として平成27年1月1日より適用することを盛り込んだことが説明された。協議した結果、休会期間を最長3年間までとすることへの変更を加えた上で、全会一致で了承された。今後、本学会HPや学会誌、年会等を通じて会員に周知し、自動的な退会による退会者が少なくなる対策を講ずることとなった。なお、複数年分の会費の遡及を認めているに係る取扱いは来年度をもって終了することとし、また、今年度会費の未納者への更なる督促を継続して実施するよう意見があった。

#### (7) 平成24年度分会費の遡及納入に係る嘆願

議長より、配付資料に基づき、24年度会費未納者4名より提出された遡及納入の嘆願に係る説明があり、協議した結果、全4件の嘆願を認めることが了承された。

#### (8) 役員候補者選出規程の改正

議長より、配付資料を基に、今秋から来春にかけて実施する次期役員候補の選出スケジュールと役員候補者選出規程の一部の改正に係る説明があった。同規程の改正点として、本学会社員総会における役員選任の決議の前及び役員就任後に辞退者・退任者が生じた場合の補充に係る規定と監事候補者の定数を3名とすること、役員候補者選挙を取り仕切る選挙管理委員会委員の選任について公正さを確保するために変更したこと、また、社員総会での役員選任を電子的に実施するための規定を加えたことが説明された。協議した結果、一部文言を修正した上で、全会一致で了承された。

#### (9) 平成26・27年度役員候補者選挙管理委員会委員の選任

議長より、配付資料に基づき、前協議事項で了承された改正役員候補者選出規程を受け、公正さを保てる役員候補者選挙管理委員会委員の人選に係る説明があり、予め次期役員候補者選挙に立候補しないことが確認できた5名の候補者をリストアップしたことが説明された。協議した結果、全会一致で当該5名を同委員に委嘱することが了承された。

#### (10) 名誉会員の委嘱

議長より、配付資料を基に、本年9月22日開催の第5回臨時社員総会に推挙する名誉会

員候補者に係る説明があった。名誉会員推薦基準内規の要件を満たす該当者として、今回は、緒方宏泰氏及び鍋島俊隆氏の2名を名誉会員に推挙する方針が示され、協議した結果、全会一致で了承された。

#### (11) 海外研修事業に係る規約の改定と寄付依頼

谷川原理事より、配付資料を基に、海外研修事業の規約の改定と同事業を安定的且つ継続的な実施に必要な原資を賄うための寄付依頼に係る説明があった。本事業は、単独のスポンサーから支援を受けてこれまで数年間にわたり実施してきた事業であり、現行の規約の随所に当該スポンサーの社名が明記されている。また、本事業の財務は、学会本体の会計とは切り分けた形で管理されているため、原資の確保が今後の本事業の活動に大きな影響を及ぼすことになる。有意義な研修活動の継続的な実施と財政基盤の安定化を図るため、複数のスポンサーに寄付を依頼することとし、今般、その際に使用する趣意書を提示したこと、それに併せて規約を大幅に改訂することが説明された。協議した結果、全会一致で了承された。

#### (12) 平成26年度の事務局体制と事務委託契約

議長より、次年度の本学会事務局体制及び日病薬との事務委託契約に関する方針の説明があった。現在、本学会と日病薬の両事務局長が、次年度の事務委受託に係る協議を進めており、その協議の内容を受けた形で本学会の次年度の事務局体制を検討しているという経過報告があった。また、さらに協議を進め、次回の理事会には自主運営による事務局体制の整備に至るまでのロードマップ等を提示したいという意向が示された。

#### (13) 第26回年会の開催候補地

議長より、平成28年度に開催する第26回年会の開催候補地及び年会長に係る説明があった。前回理事会で確認した3日間の会期と増加している参加者を収容可能な会場を有する都市に限られることを鑑み、第26回年会については松原和夫氏（京都大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）に年会長として京都での開催を打診したところ、内諾を得られたことが説明された。本理事会で承諾が得られれば正式依頼をする旨の説明があり、協議した結果、満場一致で了承された。なお、年会の開催会場や年会長の選考・決定については、今後も継続して議論することとなった。

#### (14) 医療薬学誌の今後のあり方と方向性

山本理事より、現在検討中の英文誌の発行を踏まえた医療薬学誌の今後のあり方について、先に開催した編集委員会で協議した内容が報告された。併せて英文誌発行準備委員会での議論の報告があった。従前より議論してきた医療薬学誌の投稿資格の制限撤廃に伴い、会員・非会員別の投稿料を設定する（掲載料・別刷作成料は、差別化しない）、国際誌としての位置づけを目指す英文誌との差別化を図り医療薬学誌を和文誌として位置づける。英文誌は、PubMed 収載やインパクトファクターの取得を目指す方向で検討されているため、医療薬学誌は同検討を取りやめ、他の汎用頻度が高いデータベースへの収載を検討する。さらに、新たな論文カテゴリーを追加設定するという意見に至ったことが説明された。協議した結果、投稿資格と投稿料の差別化を反映した投稿規定の改定については了承された

が、その他の事項については、今後、英文誌の発行に向けた議論の推移を見ながら、編集委員会で再検討することとなった。また、英文誌の発刊に必要な費用として、現行の医療薬学誌と同一の投稿システムを利用し、年間 30 編の論文をアクセプトすると仮定した場合、初年度 510 万円、次年度以降 460 万円程度がかかる見込みであることが説明された。

#### (15) 用語集の発行

望月副会頭より、現在編纂中の医療薬学用語集について、表示形式、媒体、配布・販売方法及び今後のスケジュールに係る説明があった。収載する用語は 2,000 語程度を見込んでおり、本学会の創立 25 周年記念事業の一環として来年 3 月を目途に書籍として発刊して会員には無償で配本する。予算面では、会員管理システム上で会員名簿の検索が可能になったことを受け、冊子体の名簿の発行を取りやめることにより、無償配本分用語集の製作費用約 1,000 万円の補填に繋がるという提案があった。協議した結果、財政面や利便性で Web 検索型のシステム構築案も出されたが、これまでの議論の経緯に鑑み、当該費用を次年度予算に組み入れ冊子体として発刊することに至った。

#### (16) 平成 26 年度各委員会活動方針・予算案

各委員会委員長を担当する各理事より、自身が担当する委員会の 26 年度活動方針と予算に係る説明があった。高額な収支の動きを伴うがん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師の各領域については、担当理事より、今年度と同様または次年度の開催回数を増やしたいという計画の説明があった。また、議長より、特に医療薬学教育委員会の活動に対して、臨床系の教員の活動に係る提案や支援に繋がる委員会活動を行うよう意見が加えられた。

#### (17) 平成 26 年度各委員会活動方針・予算案

乾監事より、薬剤師の質を高めるために 6 年制課程の薬学生が学会に参加、発表し、論文を投稿するという活動ができるための教育を、臨床系教員が指導するための支援策を本学会で検討し講じて欲しいという意見が述べられた。同様に山田監事より、大学教員の会員が少なくなっている中、大学教員が本学会の活動に積極的に参画できるような魅力がある方策を講じて欲しいことなどが述べられた。

### 4. 報告事項

#### (1) 薬剤師の研修に係る懇談会

望月副会頭より、薬剤師の研修に関する懇談会 WG (5 月 10 日 薬剤師研修センターにおいて開催) の報告事項として、当懇談会の各参加団体が中核を担う薬剤師を対象とした共通水準による認定 (制度) ができないか、また当該認定の質を確保するために認定試験の導入に関する意見交換が行われたことが報告された。次回の WG は 7 月末に開催される予定のため、経過報告をすることとなった。

#### (2) がん専門薬剤師全体会議等に係る開催報告

谷川原理事より、本学会が主催した第 1 回がん専門薬剤師全体会議 (5 月 18 日開催) 及び第 1 回がん専門薬剤師認定申請のための症例サマリ書き方講座 (5 月 19 日開催) の開催

報告及び収支決算の報告が行われた。また、9月1日開催予定の本学会主催のがん専門薬剤師アドバンス研修会及び同月23日開催の日本薬剤師会学術大会で本学会との共催シンポジウムの各プログラムの説明があった。

(3) 2013年度海外研修プログラム派遣研修員の交替（辞退と追加派遣）

谷川原理事より、先に決定した今年度の海外派遣研修員4名に対して、選考結果を通知した後、1名より業務多忙のため当該研修を辞退する意向があり、がん専門薬剤師認定制度委員会で協議した結果、先の選考から漏れた次点者を交替研修員として派遣としたことが報告された。

(4) 第23回年会の準備状況報告

議長より、本年9月21・22日の両日に仙台市で開催する同年会の準備状況の報告として、今回は協賛の申込状況、寄付等に関する情報に続き一般演題の登録数が1,425件であったこと、5月17日時点の事前参加登録数の報告があった。なお、事前参加登録は7月17日までの予定である。

(5) 平成25年度公開シンポジウムの開催予定

議長より、配付資料を基に、今年度開催する第49～52回公開シンポジウムの開催日程、場所及びテーマが決定したことが報告された。

(6) 平成24年度がん専門薬剤師集中教育講座（東京第2回目 25年3月開催）の収支報告

議長より、配付資料を基に、本年3月2,3日に日病薬と共催したがん専門薬剤師集中教育講座（東京第2回目）の収支報告があった。

(7) 「診療行為に関連した調査分析モデル事業」総括責任者の推薦

議長より、配付資料を基に、前回理事会で協議した本学会からの推薦等協力者について、当該リストを本モデル事業の依頼者である日本医療安全調査機構に送付したことが報告された。

(8) 各委員会報告

1) 専門薬剤師育成委員会

山田理事より、第1回専門薬剤師育成委員会の議事報告として、薬物療法専門薬剤師のサブスペシャリティ資格について、他学会・学術団体の認定資格との連携等に関する議論を行ったことが報告された。

2) 編集委員会

山本理事より、医療薬学誌への投稿数や収載論文のストック数に係る状況報告があり、各理事に本誌への投稿の依頼があった。また、医療薬学誌をWeb公開している国立情報学研究所より、現状の有償閲覧を維持するのか又は無償化するのかという申し合わせ事項の確認があり、編集委員会としては本学会や会員のメリット等に鑑み、現状の有償化を維持することが望ましいと判断したことが報告・相談された。その結果、同意見が支持された。

(9) 後援依頼等

議長より、次の2件の後援及び協力機関としての協力依頼を承諾回答した旨の報告があった。

- ・ 後援依頼「第8回日本薬局管理学会研究会年会」(H25.6.23開催)
- ・ 協力機関としての依頼「第29回日本医学会総会2015関西」

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は18時00分に閉会を宣言し、解散した。

上記議事概要及びその結果を明確にするため、会頭及び監事は次に記名押印する。

平成 年 月 日

一般社団法人日本医療薬学会

会頭 印

監事 印

監事 印